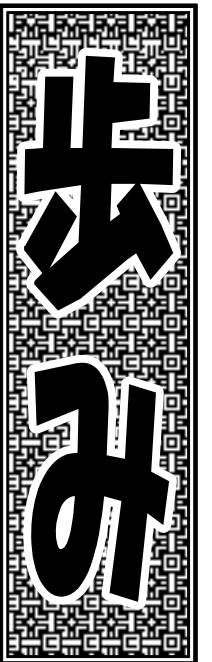


一時金・春闘総括会議

2025. 8. 27
NO. 688 号全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-2706-6574-8424
078-303-0800

7月25日、大阪港勤労福祉会館に於いて一時金・春闘総括会議を行いました。

司会の入江書記次長から挨拶があり「25春闘では物価高騰を上回る賃上げが必要であったが、一定の前進はあったものの停滞した感も否めない」とし、一方、

参議院選挙では「自公与党が過半数割れた結果は自公政治が自ら招いたものだ。これからの政治の学びを増やしていこう」と呼びかけ「総括会議を今後のたたかいの補強と生活向上のために意見を出してもらいたい」と促しました。

将来への不安も多い情勢
どうたたかっていくか



河野委員長

河野委員長は情勢報告では「温暖化による環境の変化、生活の変化、自然災害の増加があり、これは人命の危機につながる無視できない問題である」と話した後「世界各地でいつ終わるともわからない戦争が続いている。これは明らかに人

災で、武力衝突に金が使われている」と話しました。

さらに先の参議院選挙について「国政を変える重要な選挙として期待していたが、自公の議席は過半数割れし、少しは成果があったものの、躍進した政党も改憲などの不穏な目的もあり危険だ。彼らがともに経済や国政をコントロールできるのか。我われの声を届けてくれる政治を求めているかなければならない」とまとめました。

先に決着を見たアメリカとの関税交渉には「25%が15%になったのはいいが、余計な抱き合わせでたくさん貢物を負わされた。製造業等の労働者への影響も不安である」とし、さらに「石破降ろしの声が高まっているが、次は誰が首相になるのか」「一時金は少し伸びたが、陸上輸送はまだ中でも一番低い。悪循環から抜けられていない」「ドイツは最低賃金が2500円、日本はまだ1000円程度。そのうえドイツとの違いは企業が設備投資をせず、人の増員をしないこと」と等の様々な問題を挙げ「こうした状況の中、秋年末・来春闘をたたかていかなければならない」と参加した組合員の気を引き締めました。

秋年末・来春闘に向け

たたかいを強化

次に久保田書記長から総括案の提案があり、冬季一時金は23年より24年は2・7%上回ったことや、25春闘の闘争経過等を報告し、中央港湾団交には「業側の対応や行政による価格転嫁の推進、またそれらの実現等問題は山積しているが、25春闘で行われた3回のリモートによる決起集会や5次に及んだストライキなどの行動を継続し、26春闘に

つなげるため我われが中央団交に参加して最前線で背中を押すことができるように働きかけ、コロナ禍以前に戻す」と力強く提案しました。



上條分会長

名古屋支部の日興サービス分会上條分会長から全国港湾での闘争経過や全港湾の指定事業体対策会議の内容などの報告があった後「阪神支部と共闘して10年が経った。これからも支援をお願いします」と求めました。

質疑討論

質疑討論では上組分会の青石さんから国民救援会の署名へのお礼があり、一時金・春闘について「30年間賃金は安いままだ。物価にともなった春闘の実現を」と意見が出されました。

オーエスティー物流分会の入江さんからは「これまで分会交渉で価格転嫁について要求してきた。会社は『運賃交渉を行う』と答えているが実際には行っていない。不誠実である。支部の力で運賃交渉を行うように申し入れを行ってもらいたい」とし「阪神支部も中央

と連携して物価を上回る賃上げが行われるように下請けから元請けに運賃交渉を行うように働きかけてもらいたい」としました。続けて「子の看護休暇を有給休日とするよう分会独自の交渉を行っている」と報告がありました。

大運分会の田村さんからは「分会でも春闘総括を行ったが、中小企業は置き去りにされ、賃上げの原資を確保できていないという結論に至った。賃上げに特化したストライキが必要ではないか。また年単位の期間でも賃上げさせるような交渉もありではないか」といった意見が出されました。久保田書記長からの答弁と河野委員長、坂本副委員長からの補足答弁が行われました。

井ノ元副委員長から「アカミアリが相当数発見されたという報告が港湾各所から挙がっている。噛まれとかなり痛いし、まれにアナフィラキシーショックが起こることもある。十分に注意してもらいたい」と注意喚起しました。

廣渡書記次長より「今日の総括の内容を分会に持ち帰り、大会に向けてさらに議論してもらいたい」と閉会の挨拶があり、最後に池口執行委員の団結カンパロ―で終了しました。

副委員長 道下 拓也

7月27日、青年部主催によるレクリエーション「家族で楽しむ地引き網体験 & 海鮮BBQ」を大阪・岡田浦漁港にて開催しました。このレクリエーション活動は、青年部が毎月の定例会議で今年最大のイベントとして準備を重ねてきた企画です。当日は阪神支部の組合員とその家族が集まり、なんと80名を超える参加がありました。

仲の良い組合員同士はもちろんのこと、普段なかなか顔を合わせる機会のない家族間や組合員とも交流が生まれるにぎやかで楽しい一日となりました。

今回お世話になったのは大阪の泉州に位置する岡田浦漁港にて地引き網体験をはじめとした様々なイベントを企画している岡田浦漁業協同組合の皆様です。

今回のレクリエーションのために網の仕掛けやBBQ会場の設営、食材の用意にお楽しみイベントの企画と多岐にわたるご協力を賜りました。

また、当日は雲ひとつない快晴で猛暑日となりましたが、会場が高架下に設けられていたため日陰が多く、風通しも良好。日焼けや熱中症の心配も最小限に抑えられ、安心してイベントを楽しむことができました。



よいしょ！よいしょ！
地引き網をみんなで引っばる



引き上げた魚に興味津々



おなか一杯 海鮮BBQ



西 青年部部長

家族や仲間で楽しんだ 地引き網体験と海鮮グルメに舌鼓！！

ビンゴ大会で自分たちで獲った魚をお土産に



まず行われたのは、今回のメインイベントである地引き網体験です。3隻の漁船によって網が浜近くへ運ばれ、いよいよスタート。参加してくれた子どもたちが先頭に立ち「よいしょ！よいしょ！」の掛け声とともに力を合わせて網を引いていきました。網にかかっていたのは鯛やヒラメ、タコ、サメなど多彩な海の生き物。獲れた魚は大きな水槽に移され、観察したり触ったりと、子どもたちは目を輝かせながら楽しんでいました。

中にはサメを高く掲げてピースサインをする子の姿も見られ、普段は見る事のない魚にふれあう貴重な体験ができました。



阪神支部青年部では今後も、組合員やそのご家族をはじめ、さまざまな方々との交流を深め、日常では味わえない貴重な体験ができるイベントを企画・提案してまいります。「こんなことをやってみたい」「ここに行ってみよう」などのアイデアがあれば、ぜひお気軽に青年部までお寄せください。

青年部副部長 村尾 祐紀

食後には、地引き網で獲れた魚をさばいてパック詰めにしたお土産をかけたビンゴ大会が開催されました。「ビンゴ！」の音が響きわたり、子どもから大人まで大盛り上がり。複数当選したご家族からまだ当たっていないお子さんに景品を譲る心温まる場面もありました。

最後は参加者全員で記念撮影を行い、大盛況のうちにレクリエーションは幕を下ろしました。

終了後には「楽しかった」「子どもが大喜びだった」「夏休みの宿題の絵日記に書きたい」など、嬉しい声が多数寄せられ、主催した青年部としても大きな達成感と喜びを感じています。



参加者全員で記念撮影

西日本四港交流会議

四港の力を合わせて

運動のさらなる発展を

7月17日、博多中央港湾福祉センターに於いて、西日本四港交流会議が開催され、各地区より49名が集まりました。

冒頭、主催地区として挨拶に立った博多港湾の山中議長は「西日本四港交流会議は博多・関門

・大阪・神戸と持ち回りで、それぞれの港が抱える問題を共有し、互いに発展するために努めてきました。ぜひ、交流を深め、これからの四港の運動に繋げていただきたい」と挨拶しました。

各地区港湾の



海上から博多港の様子を視察

取り組み報告では、大港労協三宅事務局長から現在開催中の大阪万博とIR・カジノに触れ、万博そのものに賛成は出来ないが港湾物流に支障を出さないことを大前提に、万博協会や港湾局と協議を重ねてきた

ことを報告しました。また、万博終了後にはカジノの問題があることを取り上げ、港湾エリアに賭博場を設置させることには断固反対の姿勢と、カジノを阻止する運動を展開することを強く訴えました。

続いて神戸港湾、西澤事務局長は神戸港湾の25春闘の取り組みと経過を報告。

地区労使協議会ではコロナ前、毎年春闘時に提出してきた「強行荷役の禁止」の申し入れ書を今年度から復活させ提出したこと。また、25春闘が円満に解決できるよう、各元請に指導・徹底を図るよう強く要請したことを報告しました。

さらに、石綿、港湾施設の減免問題、安全についてなど神戸港がかかえる問題として併せて報告しました。

関門港湾 木原事務局長、



乾杯の音頭をとる博多港湾 山中議長

博多港湾 宮路事務局長がそれぞれ25春闘の取り組みと経過を報告しました。報告会議終了後には

場所を博多埠頭第一ターミナルに移し、博多港振興協会の案内で、クルーズ船に乗船し海上から須崎埠頭・博多埠頭・中央埠頭・箱崎埠頭など、博多港の歴史と発展の経過など説明を受けながら視察しました。

最後に、毎年行ってきた西日本四港交流会議ですが、各地区港湾の財政面や準備に係る問題などが議論され、今後は西日本四港交流会議の取り組みを二年

25港湾春闘をたたかう西日本四港共同アピール

日本経済は現在、長期化するロシア・ウクライナ戦争や中東紛争に端を発した燃料高騰や円安による諸物価の上昇に直面しています。多くの国民が「なぜ物価が高くなるのか」「値上げラッシュはいつまで続くのか」といった疑問を抱えている状況です。このような状況から脱出するためにも「政治の責任で物価上昇を上回る賃上げ」「消費税の廃止をめざす」などの実現が急務となっています。

しかし、2024年8月に岸田首相は自民党総裁選挙に出馬せず退陣を表明しました。そして、自民党総裁選が行われ石破氏が新総裁に就任しました。総裁選時に国会論戦で国民に判断材料を提起して解散するのが筋と表明したにもかかわらず、党首討論を実行しただけで、石破内閣は戦後最短、発足わずか8日で衆議院を解散。総選挙では、選挙戦終盤で裏金問題にて非公認となった候補者にも政治資金が配布されたことが決定打となり、与党が定数の過半数に届かないという結果となりました。この状況はまさに国民の怒りの反映であり、新しい政治を望む民意の反映でもあります。

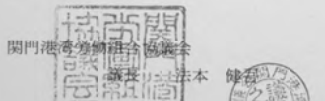
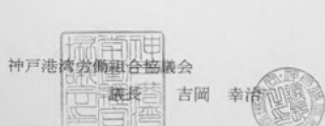
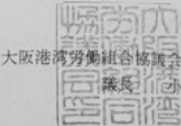
港湾の課題としては、船社・荷主が港湾運送を利用して、円安や運賃上昇等を背景に巨大な利益を得ている。政府は、適正な料金の確保に資する価格転嫁の施策を進めているが、他産業と比べても進んでいないため、その利益を港湾労働者に還元すべきことは社会的責任であり、ユーザーの港湾への還元は当然である。そして労働者不足が懸念されている今、人材確保のためには魅力ある賃金と労働条件の改善は必須である。

また、港湾が安保3文書の改定、特定利用港湾の選定などによって兵站基地として変えられようとしており、平和と民主主義を脅かす事態が一層深刻化している。港湾を兵站基地にしないことが我々、港湾労働者の命と職場を守るうえで重要である。

今春闘においても「大幅賃上げ」と「魅力ある港湾労働の確立」を柱に、大幅賃上げ・安定的雇用を労働組合が勝ち取り、すべての労働者と国民の生活を守り、政府への責任を問う春闘としなければならない。国民的な課題と労働運動の発展、大幅な賃上げを中心とする諸要求の前進に向け、全国港湾に結集し25春闘を全力で闘うことをここに宣言する。

以上

2025年3月吉日



分かるかな？

懸賞クイズ



ダンゴムシの呼吸法は？

- ①エラ呼吸②肺呼吸③皮膚呼吸④気門

687号の回答「3」

5名からの応募があり、全員が正解でした。以下に方にQUOカードを進呈します。

井上 雅子、田中 俊行、金島 真貴子
(内外フォワーディング)、
上田 周一 (大運)、羽山 優 (大洋運輸)

688号の締め切り日は9月18日 (木) です。
ふるってご応募ください。

FAX: 06-6572-0914

に一度とする「隔年開催」とすることが決定されました。毎年隔年開催とな

りますが、四港の交流とこれまで築いてきた運動の歴史を継続し、さらなる発展

に繋げていきます。

副委員長 松本 栄二